

実現の運びに!!

な米国ヘンダーソンビル市と

市ではこのほど、米国テネシー州ヘンダーソンビル市と姉妹都市としての交流を進めることとなりました。

ヘンダーソンビル市と姉妹都市になるという話は、一部市民の間でかなり前からち上っていました。昨年十一月九日、ヘンダーソンビル市議会が都留市との姉妹都市関係樹立のための議決がなされました。

これを受けて市では、三月定例市議会に「姉妹都市提携盟約締結の件」を上呈し、承認されました。

五月中旬には、高都市長夫妻がヘンダーソンビル市を公式訪問し、姉妹都市提携の調印式に臨み、両市の正式な交流が図られることとなります。



Welcome to Hendersonville

姉妹都市提携に

「きつめる」までのいきさつ

昭和五十四年、ヘンダーソンビル市の民間友好グループ「テネシー文化使節団」が知人を通じて来市。

市民会館で合唱とハンドベルによる演奏会を開き、一泊でしたが、ホーム・ステイの歓迎を受けました。

彼らはアメリカ文化を紹介しながら、日本人の生活や文化を理解するため、日本の大都市を中心とした訪問を続けてきましたが、本市を訪れ、市民の心の暖かさや都留市の美しい自然に深く感動して帰

国しました。

その後、昭和五十五年にテネシー文化使節団の一員、マーサー・ジーン・ウッドティーンさんが再度来市。

こんどは二ヵ月余り市内の家庭にホーム・ステイし、市内中学校で生きた英語の指導にあたりました。

昭和五十六年七月、文化使節団は再度来市し、市民会館で日米交歓親善演奏会を実現しました。

このような交流により、都留市に深い理解を示したヘンダーソンビル市では、姉妹都市として都留市と交流したいという気運が次第に高まり、このたびの運びとなったわけです。



▲ 姉妹都市提携についてのヘンダーソンビル市の議決書

経済・産業面での接点も

テネシー州は、全米のなかでも日本企業の誘致にもっとも熱心な州であり、すでに十六以上に及ぶ日本企業が進出しています。

ヘンダーソンビル市もこういう点ではきわめて積極的で経済・産業の面での交流も願っています。

特に、本市の絹織物に対する関心は高く、テネシー文化使節団のクチコミにより、市民の間で人気が高まっています。

構造不況のあたりをうけて低迷を続ける本市の繊維産業も、活路を見出すためにこうした海外での人気の原因を分析してみることも、ヒントの一つになるかもしれません。



▲ 宝山寮を訪問して、寮生と合唱するテネシー文化使節団